

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

重油焚ボイラの高効率ガス焚ボイラ転換による
省エネルギー事業

排出削減事業者名：西染工株式会社

排出削減事業共同実施者名：四国電力株式会社

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4	国内クレジット認証要件の確認	2
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3	排出削減活動期間	2
3.1	プロジェクト開始日	2
3.2	モニタリング対象期間	2
4	温室効果ガス排出削減量	3
4.1	採用した排出削減方法論の情報	3
4.2	活動量	3
4.2.1	活動量・原単位	3
4.2.2	活動量の採用根拠	3
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	3
5	モニタリング対象指標	4
6	モニタリング体制	5
6.1	モニタリング対象指標の QA/QC	5
7	排出削減量の計算	6
7.1	事業実施後排出量	6
7.2	ベースライン排出量	6
7.3	リーケージ排出量	6
7.4	温室効果ガス排出削減量	6
8	省エネルギー量	7
9	再生可能エネルギー利用量	7

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	西染工株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	西染工株式会社
住所	愛媛県今治市南大門町4丁目5-1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	四国電力株式会社

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

重油焚ボイラの高効率ガス焚ボイラ転換による省エネルギー事業

2.2 排出削減事業の目的

本事業は各種染色機、乾燥機等の熱源になっている重油焚ボイラ設備を高効率ガス焚ボイラに更新し、省エネルギーを図るものである。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

既設の重油焚ボイラを高効率ガス焚ボイラに更新し、エネルギー消費量およびCO₂を削減する

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

なし

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2009年4月1日

3.2 モニタリング対象期間

2010年1月1日 ～2010年12月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量は採用していない

4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用していない

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、西染工株式会社の工場に蒸気を供給するボイラ設備の内、排出削減事業実施前に炉筒煙管ボイラが供給していた部分である。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更あ る場合、) 変更理由
M-1	事業実施後燃料使用量	m ³ N/年	1, 223, 233	燃料供給会社からの請求書をもとに算出(事業実施前のバウンダリー比率: 0.855 を乗算・m ³ N 換算係数: 1.045 で除算)	
M-2	更新前ボイラ効率	%	87%	メーカーカタログ値	
M-3	更新後ボイラ効率	%	92%	メーカーカタログ値	
M-4	C 重油単位発熱量当たりの炭素排出係数	tC/GJ	0.01954	デフォルト値	
M-5	都市ガス単位発熱量当たりの炭素排出係数	tC/GJ	0.01366	デフォルト値	
M-6	C 重油単位発熱量	MJ/L	41.9	デフォルト値	
M-7	都市ガス単位発熱量	MJ/m ³ N	44.8	デフォルト値	

6 モニタリング体制

6.1 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類	QA/QC 手順
活動量	
M1 事業実施後燃料使用量	年 1 回請求書の読値に異常がないか確認すること
単位発熱量	
M6 C 重油単位発熱量	年 1 回当該デフォルト値を確認し採用している数値を確認すること
M7 都市ガス単位発熱量	年 1 回当該デフォルト値を確認し採用している数値を確認すること
排出係数	
M4 C 重油単位発熱量当たりの炭	年 1 回当該デフォルト値を確認し採用している数値を確認すること
素排出係数	
M5 都市ガス単位発熱量当たりの炭	年 1 回当該デフォルト値を確認し採用している数値を確認すること
素排出係数	

7 排出削減量の計算

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
1, 223, 233 (m ³ N/年)	44. 8 (MJ/m ³ N)	0. 01366 (t-C/GJ)	2, 744. 8 (t-CO ₂ /年)
EM _{pJ}			2, 744. 8 (t-CO ₂ /年)

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
1, 323, 826 (L/年)	41. 9 (MJ/L)	0. 01954 (tC/GJ)	3, 974. 1 (t-CO ₂ /年)
EM _{BL}			3, 974. 1 (t-CO ₂ /年)

7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0 (t-CO ₂ /年)

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7. 2)	EM _{BL}	3, 974. 1 (t-CO ₂ /年)
事業実施後排出量	(7. 1)	EM _{pJ}	2, 744. 8 (t-CO ₂ /年)
リークージ排出量	(7. 3)	LE	0 (t-CO ₂ /年)
温室効果ガス排出削減量		ER	1, 229 (t-CO ₂ /年)

8 省エネルギー量

原油換算		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン －実績 (①－②)

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
		エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
	単位	(実績)	(実績)	(実績)